

三井の人殺し合理化を許すな

総反省を行い

今後の方向を確立した

炭労第四五回臨時大会

五月二十八日より二十九日まで開かれた、炭労第四五回臨時大会は、東京・全日通労働会館でひらかれた。

今次大会の目的は、指導体制を確立し、賃金闘争の事態收拾にともなう組合員の不満、組織と幹部に対する不信を払拭して、当面の参議院選挙闘争をたたかいぬき、期末手当闘争体制の確立をはかり、炭労の体質を改善するための方向についての意志統一をはかることであつた。

どのような点が問題であつたか

- 1、四月二〇日のスト延期について
- 2、第二次答申案に対する炭労の構えについて
- 3、大衆闘争路線について
- 4、全炭鉱の性格と先行妥結について
- 5、企業連のあり方と三鉱連の戦線離脱について
- 6、第四回大会について
- 7、統一闘争・展望論・指導態勢・戦術等について

以上の点が主なる問題点としてとり上げられ、白熱的な討論が行われ、大会を一日延長して、小委員会(各山代表並びに中間全員参加)をもち、問題点を深く掘り下げ大綱的にまとめた意志統一を大会

は満場一致確認したのである。どのような点を反省したのか

また大衆闘争路線を指導の基本として指導する任務をおいた指導部が、自からこれに反する行動をとつたことが問題であり、特に四月二〇日のスト延期は問題である。これを指導部はまた反省すべきだ。このスト延期が、今次闘争不成功の一切のきつかけを作つたといえる。

また全炭鉱(三池の第二組合を含む)の性格の位置付けと先行妥結に対する情勢の把握に甘さがあつた。

さらに企業連のあり方と産業別の指導の面において闘争指導部の内部実態の把握に不十分さがあつた。三鉱連の脱落についても具体的に対策をたてなかつたのではない。この際、三鉱連に対しては、はっきりとした態度を出すべきでないか等々。その他統一闘争と戦術決定についての問題や、保安要員の差出し等についての意見が多く出された。

①本大会を契機として炭労指導部・元幹部各級機関(組合員を含む)は総反省をする。
②従来は討論が不十分であつたので今後には充分な討論をし、決定したことは必ず守る。また守れないような決定は行わない。
③今後は徹底した大衆闘争路線を確立する。そのためには、まず交流・学習・点検活動を積極的に行う。
④全炭鉱の先行妥結は今後もありうるだろう。しかし、現在の石炭産業の中に占める炭労の位置、炭労は自らのたたかい(抵抗)



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 3033番
8100番
編集人 瀬田紀生
発行人 瀬田紀生

ある瞬間の感激による英雄的な行動は、誰にもまねられる。
どのような暗黒のときにも、最後の勝利を見つめていることのできる確信のみが、最後の勝利をもたらすものだ。
一九五六・五山 川 均
(本所支部蔵)

三井鉱山は何度人殺しをくり返すのか

あまりにも悲惨だ
三三七名の労働者が、またまた三井山で惨殺された。

六月一日のテレビ・新聞などでも、「惨殺」といつてい

ほどこにわたるらしい実態が明らかだ。それは決して誇張ではない。三井三池、北炭夕張、日鉄伊王島、三井山野とこの三年半の四大災害だけで七六六名が殺され、ほ

ば同数の中毒患者を出している。山野では、しかも一五五名の組夫の人たちが殺され、いまから

抗)の中で、生命と生活を確保して行くという基本方針に立ちそれを統一闘争に発展させるというたかいたが唯一の形態であることを確認する。
右方針を三鉱連としても確認する。

①以上の基本に立つて当面する参議院選挙・期末手当闘争をたたかひぬき、次期定期大会(九月)では、さらに具体的方針を確立し、定期改選をくり上げて改選を行い、新しい方針と新しい人事機構の上に立つてねばり強い抵抗闘争を推進する。
討論は前進した
ただ実行あるのみ
今次大会の討論は、たしかに前向きであり前進した。しかし、これを今後どのように実践するか炭労の運命にかかっている。とにかく小さなことからでも、一つ一つ実行に移すことが何よりも必要である。

わきわきを転じて福となす、といふことわざ通りになることを望み、われわれは、このような炭労全体の闘争力強化の先頭に立つことを全員で意志統一しよう。

1965年度定期総会について

きひしたか
いたか
の一年
をよりか
えり、新
しい決意
をこめた
「定期総
会」をも
つが、そ
の間の日
程は次の
通りであ
る。

- | | |
|----------|----------------------|
| 一日 | 支部委員会 |
| 六月六日(日) | 第一回中央委員会(荒尾公会堂・午前九時) |
| 六月十三日(日) | 定期総会(四山講堂・午前九時) |
| 六月一五・一六日 | 規約改正の無記名投票 |
| 六月一七日 | 選挙管理委員会発足 |
| 六月二〇日(日) | 選挙告示 |
| 六月二五日 | 役員選挙投票 |
| 六月二六日 | 同 開票 |
| 六月二七日(日) | 第一回中央委員会(四山講堂) |

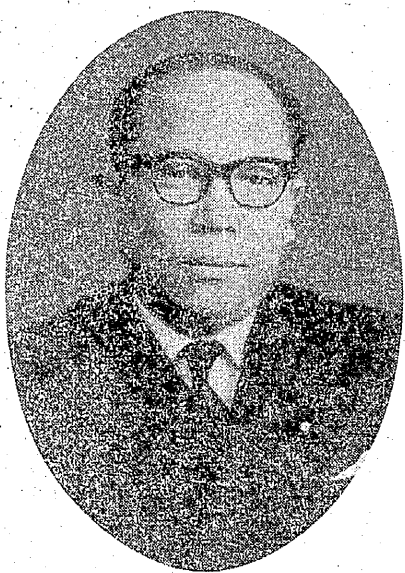
一人という職員の監視労働でたぐたにされ、災害前日五月三日には、六〇〇トンの予定に対して、九五〇トンも出炭している事実がある。

三池の場合、三川鉱大災害の前月、昭和三十八年一〇月に、戦後最高の出炭(四〇〇、三〇〇トン)を記録した事実を想起すべきである。

大切なことは明日からも坑内で働く炭鉱労働者の生命の保障を、団結してかちとるということである。

命を守ることを真剣にわれわれは「抵抗なくして安全なし」という合言葉で、団結し抵抗闘争を組んでいる。

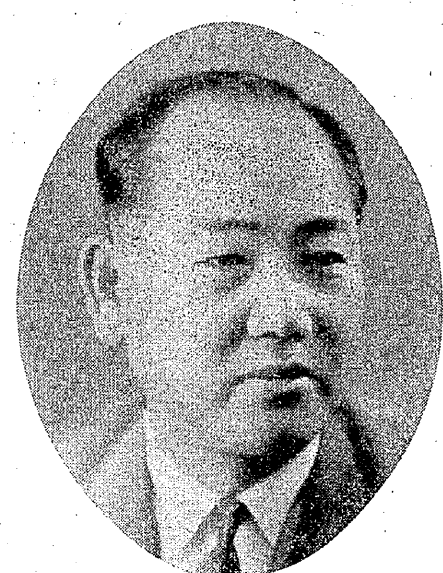
それは「災害と合理化」の関連を大衆討論したからであり、大災害後一七名のうち三池労働組三名の犠牲者をかえりみて「災害ゼロ



森中守義
(熊本地方区)



小宮市太郎
(福岡地方区)



阿具根 登
(全国区)

平和と生活を守るため
参院選に勝利しよう
参議院議員候補
のぼる